

科目名	開講時期	必修・選択	科目区分	単位（時間）	科目責任者
微生物学	1年次 前期	必修	講義	1単位（30時間）	滝 龍雄
授 業 概 要					
<p>最近の感染症は、新興、再興感染症を問わず国境という人為的な枠を超え地球的規模で発生するので、広い視野を持った感染対策、予防対応が必要であり、感染症対策は世界共通の課題と言える。</p> <p>本講義では、将来、看護に携わる専門職に必要な、①現代の感染症の正しい理解、②疾患に応じた適切な疾病予防対策の実践能力、③「Infection Control Team」の一員としての役割を果たしうる各種病原体の特徴の習得を目的とする。細菌の他、真菌やウイルス等の微生物が感染症の原因となり、病原体が違えば予防法も異なる。微生物学は看護実践の上で大変重要な基礎となる学問であり、患者を不必要な感染症から守り、自分自身をも予期せぬ感染症から守る為の確実な知識、技術の習得を目指す。</p>					
到 達 目 標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療における感染症対応の必要性を説明する。 2. 感染症対策における看護師の役割を説明する。 3. 滅菌と消毒の理解を深め、適切に対応できる技術を身につける。 4. 感染症の原因となる各種微生物の知識・各種感染症疾患について説明する。 5. 各種病原体による病院感染の予防法について理解し実践する。 					
回	学 習 内 容				担当教員
1	微生物と微生物学：微生物と人間、微生物学の歩み、微生物の性質				滝 龍雄
2	細菌の性質：形態と特徴、培養環境と栄養、遺伝、分類、常在細菌叢				
3	真菌・原虫・ウイルスの性質：形態と特徴、増殖、分類、他				
4	感染と感染症：微生物感染の機構、感染の成立から発症・治癒まで				
5	感染に対する生体防御機構、感染源・感染経路から見た感染症、滅菌と消毒				
6	感染症の予防、感染症の検査と診断、感染症の治療、感染症の現状と対策				
7	病原細菌と細菌感染症：①グラム陽性・陰性球菌、グラム陰性好気性桿菌				
8	合同：映画鑑賞「Outbreak」				
9	病原細菌と細菌感染症：②グラム陰性通性桿菌、らせん菌、グラム陽性桿菌				
10	病原細菌と細菌感染症：③抗酸菌と放線菌、嫌気性菌、スピロヘータ				
11	病原細菌と細菌感染症：④マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア				
12	病原真菌と真菌感染症、病原原虫と原虫感染症				
13	主なウイルス感染症：①DNAウイルス、RNAウイルス I				
14	主なウイルス感染症：②RNAウイルス II				
15	プリオンとプリオン病、総合質問				
学 習 方 法					
<p>日常の身近な微生物から、疾患と関連が深い病原性のある微生物までを学ぶ。日々の予習復習を重ねながら授業に臨むこと。</p>					
評 価 方 法					
〔評価方法〕 科目修了試験					
先 修 科 目					
なし					
教科書、参考書					
〔教科書〕 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進④ 微生物学 南嶋洋一、吉田真一 他著 医学書院					